



## 障害がある方の就労について

以前、クライアントの皆さんにご協力いただいた「就労に関するアンケート」(「土づくり」2025年春号にて報告)では、136名のご回答者のうち、「就労していない方」は118名。そのうち「就労したい」と回答された方が16名でした。

### ■就労を阻む理由



### ■希望する仕事

- PC・SNSを使用する仕事
- IT・エンジニア関連
- 事務職
- リモートワーク etc.



### ■職場への希望

- 在宅ワーク
- フレックス制
- 日中のトイレ・通勤退社時の介助
- 障害への理解
- バリアフリー化 etc.

### ■必要な社会的支援

- 就労中でも重度訪問介護を使えるようにしてほしい
- 勤務先と一緒に探してほしい etc.

### ■不安に思うこと

- 会社の人に介助を頼めるか
- 継続的に就労できるか
- コンスタントに仕事がこなせるか
- 健康面/偏見 etc.

アンケートの中でも就労を阻む理由として上位にあったのが「身体的に困難」「通勤が困難」「仕事が見つからない」といった要因です。実務的なスキルを磨いている宮脇さんの就職活動の状況を見ても、障害者雇用においてはまだまだ雇用側の環境整備や調整が進んでいないのが現状のようです。



## 宮脇さんの就労事情に見る障害者雇用の現在

### Q: どのように就職活動をしていますか？

A: ハローワークが主体です。就職先もハローワークの担当者の方と一緒に探していく、面接をしていただいている。ハローワークに登録されていない企業だと、障害者が働きやすい制度が導入していくこともあります、ハローワークに登録している企業だと、例えば「この企業はあまり障害者に優しくない」とか、「この企業だったら障害者が働きやすい」といったところも分かります。

### Q: 就職活動は大変ですか？

A: 障害者枠の就職なので、ハローワークの担当者の方からは「焦って面接をいろいろ受けるよりも、焦らずにゆっくり進めていくよう」と言われています。あまり焦って就職してしまうと自分に合っていないかもしれませんし、企業からの支援も必要なので、企業にも自分の障害のことを知ってもらわなければならず、そこで時間がかかると思っています。

### Q: 就職先を決めるポイントは何ですか？

A: 働きやすさです。僕は車椅子を使っているので、リモートワーク(在宅勤務)の企業を探しています。ただ、そもそも在宅ワークができる企業が少なくてですね…職場に通勤する会社は多いんですが。それに在宅とはいえ、年1回、月1回は通勤という企業もあって、そうするとなるべく近い場所がいいかなと思っています。岡山県周辺か兵庫・大阪、遠くても福岡あたりですね。

### Q: 他に大変だと感じることは？

A: 「職務経験が必要」という企業がかなり多いです。勤務経験5年以上が一番多いと感じるんですが、即戦力を求めているんだと思います。そういうところばかりですね。一度入ってしまえば職務経験も付くので、後々は楽になるとは思っているんですが…

### Q: 資格に関してはどうですか？

A: そうですね、僕はExcelとWordのエキスパートは取得しましたが、今は簿記の勉強をしています。ハローワークの担当者の方にも「簿記の資格は就職に有利」と言われたので、取ってみようと思いました。ただ覚えるのが大変ですね、覚えることが多くて。

### Q: これから将来をどのように考えていますか？

A: まだあまり想像できません。とりあえず就職することを最優先に考えています。働く意欲はかなりあります、今すぐにでも働きたいですね。



土屋グループと  
クライアントをつなぐ季刊誌

# 土づくり 特別号

夏&秋



みやわき たいよう  
名前:宮脇 太陽さん(23歳)

出身:岡山県備前市

病名:デュシェンヌ型筋ジストロフィー

一年が経過して  
宮脇さんの近況  
A..はい、2025年3月に卒業しました。

Q..卒論のテーマは何にされたんですか？

A..備前市の就労継続支援B型事業所の課題について調べました。ただ、ネタが集まらず夏くらいに全く進まなくなってしま

Q..就職はどうされましたか？

A..まだこれからです。今も就職活動中で、時間がかかりています。事務作業やデータ入力など、一般事務で就職することを考えています。

Q..サッカーはいかがですか？

A..サッカーは今も週末に練習していますが、『レッドイーグルス兵庫』は退団しました。だつたら前ほどは勝てなくとももつと厳しい環境に身を置いて続けた方がいいのかなと思って移籍しました。

ボールも未来も追いかけて 就活×サッカー×ネコの日々  
今回、土づくり2回目の出演となる宮脇太陽さん。前回の取材当時は、大学で勉学に励みながら、2026年に開催される電動車椅子サッカーの世界大会、アルゼンチン・ワールドカップ(W杯)の日本代表を目指して日々、奮闘していました。あれから1年が経ち、現在の宮脇さんの近況をお伝えします。

宮脇さんは2歳でデュシェンヌ型筋ジストロフィーの診断を受け、筋力が少しづつ落ちる中、小学校高学年頃から車椅子の生活となりました。両親の送迎で中学に通い、電動車椅子サッカー(以下、サッカー)を始めた宮脇さん。高校は普通科進学校に入学し、サッカーに真剣に取り組む一方で、有名大学を目指すクラスメイトと共に勉学に励んできました。

高校2年の冬には強豪チーム『レッドイーグルス兵庫』に移籍。当チームは、日本のトップを決める大会「パワーチェアーフットボールチャンピオンシップジャパン」で4度の優勝を成し遂げた日本車椅子サッカー界屈指の強豪チームです。

宮脇さんは数々の試合や遠征をこなしながら、高校卒業後は早稲田大学人間科学部健康福祉科学科のEスクールに入学。オンラインで福祉・心理学などの勉強をし、4回生となった2024年には卒業論文に向き合いながら、就職についても思案中でした。Excelのエキスパートの資格を取るなどし、リモートワークでの就職を目指しているとのことです。並行して、2026年アルゼンチンW杯の日本代表を目指し、家族や介護士のサポートを受けながら週末にサッカーの練習に励んでいます。

アーチーがあまり磨かれていないと感じています。だつたら前ほどは勝てなくとももつと厳しい環境に身を置いて続けた方がいいのかなと思って移籍しました。



### 前回の取材より

アルゼンチンW杯も来年に迫る中、宮脇さんは代表選手に選ばれるべく、今年秋の全国大会を目指して奮闘しています。宮脇さん「普段は基礎練習を中心に行い、他チームとの試合で遠征することも増えています。関西圏だとチームが多いですし、イーグルスといつしょに遠征することもあります」  
古巣を離れても、仲間であることに変わりないのが電動車椅子サッカーです。宮脇さん「電動車椅子サッカー 자체が一つのコミュニティみたいになっているので。『サッカーをしている人はみんな仲間』というコンセプトなんです」  
最近は土屋が後援しているJリーグ・ファジアーノ岡山FCの試合にも行つたそうです。宮脇さん「ネコが好きなんです。自由な感じがいいなと思って」  
宮脇さん自身も、「はるちゃん」というネコを飼っているとのこと。手足の白い、自由気ままな、茶とらの「はるちゃん」です。宮脇さん「でも膝には乗つてくれないです。自分でおもちゃを探して、勝手に遊んでいます。頭を触つたら、『触るな』って感じないんで」  
YouTubeでネコの動画に癒されつつ、サッカーで就活に励む日々を送る宮脇さん。そんな宮脇さんを、土づくりメンバー一同、応援しています！

ネコと癒しとサッカーと

## 創業5周年を迎えて

土屋グループは2025年8月19日をもちまして、創業5周年を迎えることができました。これもひとえに、日頃よりご愛顧いただいております。クライアントの皆さまのご支援とご厚情の賜物と、心より御礼申し上げます。この5年間、数々の挑戦を重ねてまいりましたが、軸としてきたのは、私たち土屋グループの本質である「利他」(他者に利する)の精神です。そして、私たちにとっての第一の他者とは、言うまでもなくクライアントの皆さまです。

現在、土屋グループのクライアントは1500名以上いらっしゃり、皆さまの生活を10年後も20年後も、100年後も支え続けることが私たちの使命です。そのために土屋グループの永続化の取組みを進めるとともに、今後もクライアントの皆さまや、現場でサポートする方たちが躍動できるような環境整備を実現したいと思っております。

これからも、我々のビジョンである「オールハッピーの社会の実現」に向けた取組みを大切にしながら、さらなるサービスの向上に努めてまいります。今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



株式会社土屋  
代表取締役 高浜 敏之

2025年10月  
「一般社団法人 土屋雉翔会  
はれのくに在宅クリニック 杜の街」  
(岡山市)が新規開院!

小児から高齢者まで、  
全世代の在宅療養環境の充実を目指して

概要  
院長：入江真大氏（外科、在宅医療）  
・お子様から高齢者まで幅広く対応  
・定期・緊急対応、24時間体制  
・専門的な医療ケアに対応

## 「全国障害者地域生活支援事業者連絡会」の会長に高浜代表が就任！

全国障害者地域生活支援事業者連絡会（略称：全地連）の概要  
○設立の趣旨：正しい制度や事業者のあり方について考え、社会に発信する  
○設立日：2025年7月28日  
○加盟事業者数：37社（2025年7月現在）※全国19都道府県の事業者が参加  
○会員の事業内容：重度訪問介護を中心とした障害福祉サービスの提供

WEBサイト：<https://fukushi-zenchiren.jp/>

土屋グループは重度訪問介護のリーディングカンパニーとして各事業者との連携を強化し、サービスのさらなる向上を目指すとともに、政策提言等を通して介護業界の持続可能性の確保や待遇改善、重度訪問介護制度の発展に尽力します。

## ■海外研修



### デンマークスタディツアー

2025年6月1日～7日

選抜メンバーが障害者の就労支援事業所、特別支援学校、障害者グループホームなどを視察し、デンマークの福祉についての知見を深めました。



### 専門家と行く 中国・北京の医療介護・認知症ケア最前線 観察ツアー

2025年6月24日～27日

取締役ら7人が、北京の地域密着型施設や認知症専門施設を見学し、中国の高齢者ケアの現状と課題について貴重な学びを得たほか、「日中認知症ケア交流シンポジウム」にも参加しました。



## ■イベント開催

### ケアサミット 2025 —ケアの語りと実践をひらく—

開催日：2025年7月5日  
場所：シダックスカルチャーホール（渋谷）/ Zoom  
作家・岸田奈美氏らを招き、様々な立場から“ケア”を語るイベントを開催しました。当日は、「今、どのような情報発信が求められているのか」、「理想的なケアを現場でどう実践していくのか」などに関する活発なトークが展開しました。

## 土屋ケアカレッジの 特別社内研修会

専門家による講習を通じて、スタッフの知識や技術の向上を図る特別社内研修会を12回にわたり実施します。現在、4回目まで開催されました。

### ■第1回

『経管栄養の投与経路別の特徴と適応』  
講師：入江 真大氏（医師）

### ■第2回

『胃ろう管理のトラブルシーティング  
アテンダントにできることは？』  
講師：平良 亮介氏（看護師）

### ■第3回

『飲み込むってこんな感じ～実際に感じて理解～』  
講師：妹尾 郷史氏（言語聴覚士）

### ■第4回

『ポジショニングスキルアップセミナー～  
ALSなどの難病患者へのポジショニング～』  
講師：藤井直人氏（健康運動指導士・食生活アドバイザー）

## TSUCHIYA MEMBER's STORY

土屋のアテンダント・管理者・マネージャーらが、自らの過去、そして現在、未来への希望と、障害福祉にかける想いを語ります。

## クライアントインタビュー

土屋のクライアントあるいはご家族が、自らの半生、そして抱き続けた想いを語ります。



## クライアントのみなさまへ

広報土づくりへのご意見・ご感想はこちらまで  
[tct\\_shachoshitsu@care-tsuchiya.com](mailto:tct_shachoshitsu@care-tsuchiya.com)

当社介護サービスにおいて虐待や身体拘束が疑われる場合がありましたら、下記までご一報ください。  
[client@care-tsuchiya.com](mailto:client@care-tsuchiya.com)

発行元 株式会社土屋  
岡山県井原市井原町192番地2  
久安セントラルビル2階

